



これでもう迷わない

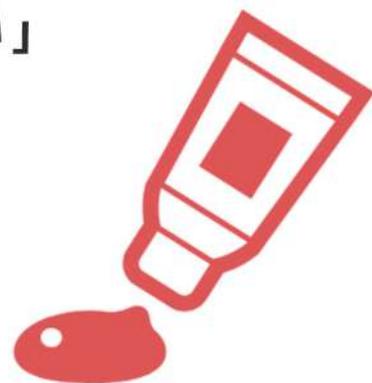
パーフェクト画材ガイドブック

著 岡部遼太郎

「どんな画材を買えばいいのかわからない」

「絵を描くには何をそろえれば良いの？」

これから絵を描きたい、もっと絵を上達させたい
そんなあなたをバックアップするための
画材ガイドブック！！



画材ガイドブック

岡部遼太郎

目次

はじめに

第1章ー①アクリル絵の具はどんな絵の具なの？

第1章ー②アクリル絵の具と水彩絵の具ってどこが違うの？

第1章ー③アクリル絵の具を使う場合アトリエは必要ない？

第2章ー①アクリル絵の具は両極端な使い方も可能

第2章ー②水彩画のような使い方とは？

第2章ー③油絵のような使い方とは？

第3章ー①アクリル絵の具の技法とは？

第3章ー②技法1 「ウェット・イン・ウェット」

第3章ー③技法2 「グレーズ技法」

第3章ー④技法3 「スキャンブル技法」

第3章ー⑤技法4 「グラデーション技法」

第3章ー⑥技法5 「インパスト技法」

第3章ー⑦技法6 「スパッタリング技法」

第3章ー⑧技法7 「ドリッピング技法」

第3章ー⑨技法8 「ミクストメディア技法」

第3章ー⑩技法9 「ドライブラシ技法」

第3章ー⑪技法10 「ハッチング技法」

第3章ー⑫技法11 「コラージュ技法」

第3章ー⑬技法12 「箔技法」

第4章ー①ほかの画材と組み合わせて使う方法について解説！

第4章ー②鉛筆と組み合わせる使い方

第4章ー③コンテと組み合わせる使い方

第4章ー④パステルと組み合わせる使い方

第4章ー⑤水彩絵の具と組み合わせる使い方

第4章ー⑥油絵具と組み合わせる使い方

第5章ー①用意すると便利なアクリル絵の具と画材について

第5章ー②アクリル絵の具

第5章ー③キャンバスの下地材

第5章ー④メディウム

第5章ー⑤リターダー

第5章ー⑥筆

第5章ー⑦キャンバス

第5章ー⑧エアブラシ

第5章ー⑨フェキサチーフ

第5章ー⑩パレット

第5章ー⑪筆洗バケツ

第5章ー⑫マスキングテープ

第6章ー画材の買い方や揃え方について
最後に

はじめに

初めまして！僕は絵描きの岡部遼太郎と申します。

この度は僕の書籍を手にとっていただきありがとうございます。

僕は現在様々なギャラリーで展覧会を行ったり、壁画事業に携わったり、絵を描く方々にアドバイスや助言をする仕事を行っています。

この本は僕が今まで絵を描く仕事をしてきて学んだ知識やスキルを詰め込んで作りました。

特にこれから絵を描いていきたい人がどんな画材をそろえれば良いのか、どんな描き方が

あるのかという事にフォーカスしています。

僕が絵を描き始めたのは高校生の頃なのでかなり長い間絵を描いてきました。

その中で色々な画材を使ってみたりしてきました。

鉛筆などの基本的な画材から始まり、パステル、木炭などのデッサン系の素材から水彩、油絵の具などの本格的なものまで一通りは触れてきたんですね。

その中でも使わないものは全く使わなくなったり今でも使っているものもあつたりと色々取捨選択を今でも常にしています。

そんな中で初心者の方は絵を描き始めるときにどんなものを選べばいいのかかなり迷うと思います。

僕が今回執筆するこの本では僕が今現在実際に使っている「アクリル絵の具」とそれにまつわる画材について触れてご説明していきます。

アクリル絵の具は非常に利便性が高く色々な表現を可能にしてくれる絵の具です。

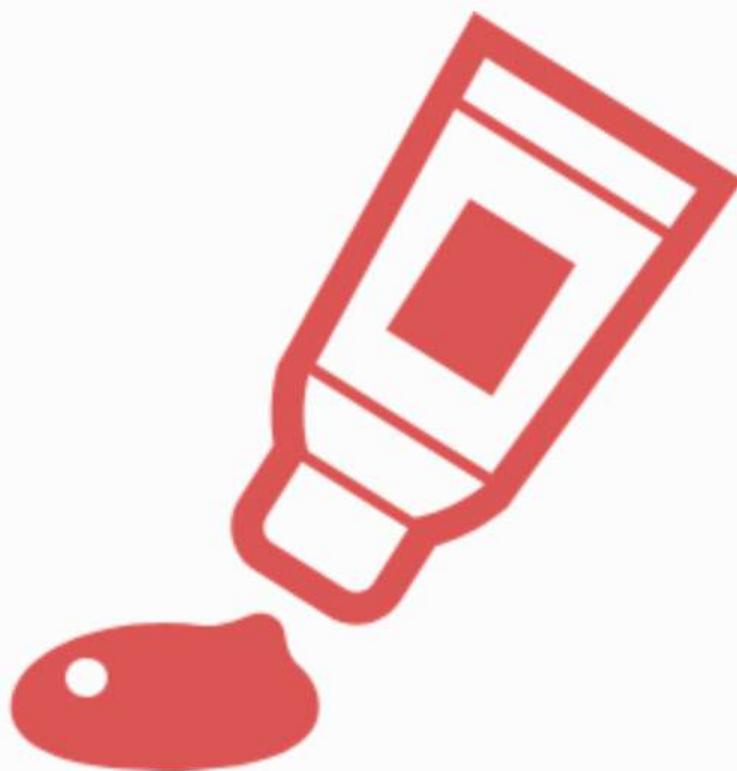
使いこなせれば水彩のようにも油絵の具のようにも使えます。

まさに絵を描き始める人がはじめに手にするべき画材だと僕は思っています。

この書籍はそんなアクリル絵の具をはじめとした画材選びの助けになるように執筆しています。

ぜひご参考になれば幸いです。

第1章ー①アクリル絵の具は どんな絵の具なの？



僕は絵をこれから描き始めたい、もっと絵を勉強して上手になりたいという方に、「アク

「リル絵の具」を使うことをおすすめしています。

理由は・・・

- ・ 使いやすい
- ・ いろいろな絵を描ける
- ・ とても耐久性が強い
- ・ 環境にやさしい

などなど多くのメリットがあるからなんですね。

まず皆さんはアクリル絵の具の特徴ってどんな部分だと思いますか？

意外とアクリル絵の具はこういう絵の具です！みたいに出てこないですね。

アクリル絵の具は他の絵の具と比べるとかなりオールマイティな性能を持っているんです。

どういうことかということ、水で溶かせば水彩のように描けるし滲みなども使えます。

またあまり水を加えずに溶かさずに使うと、油絵のように厚く塗っていくことも出来てしまいます。

油絵のようにも水彩のようにも使える、そんな画材なのです。

便利な絵の具だなんて思いましたか？

はい！その通りかなり便利な絵の具なのです！

それだけではありません。

詳しくは後述しますが、アクリル絵の具は豊富なメディウムが用意されています。

メディウムってなんぞや？って思う方もいると思います。

メディウムというのは絵の具の性質を簡単に変えることのできる材料なんです。

例えば乾燥速度を変えたり、透明度を高めたり、混ぜるだけでそのような変化を作ることができるんです。

初心者でも簡単にそうした絵の具を作ることができるのでありがたいですね。

またもう一つ大きな特徴があります。

それは「**速乾性で耐水性がある**」という点です。

速乾性なので非常に早く乾きます。

例えば油絵の具などはキャンバスに塗ってから3日ほどは乾燥に時間を必要とします。

手に付いたりしてしまふんですね。

しかしアクリル絵の具は5分もかからずに乾燥するんです。

これは絵を描く際に大きなメリットになります。

それだけ早く絵の具を重ねて描いていくことが出来るからですね。

油絵の具は色を何回も重ねることで複雑な色味を作ったり、透明な色を重ねる描き方をしたりします。

しかし油絵具では塗った色が乾燥するまでに時間がかかるので、その上に次の色を塗るまでに時間がかかってしまいます。

しかしアクリル絵の具は乾燥が非常に早いのですぐに次の色を重ねて、緻密な絵を描いていくことができます。

僕がアクリル絵の具を使っている大きな理由の一つがこれですね。

また、水溶性の絵の具なのでドライヤーなどで乾かせば1分以内で乾燥させることもで

きるので、何百倍かそれ以上にも乾燥が早いですね。

第1章ー②アクリル絵の具と 水彩絵の具ってどこが違う の？



アクリル絵の具も水彩絵の具も、どちらとも水で溶かして描くことが出来る絵の具なのですが、両者の違いってどんな部分にあるのか分かりますか？

ここではこの2つの絵の具がどのように違うのかを、使い方も含めて解説していこうと思います。

まず使われている材料が違いますね。

基本的に絵の具というのは、顔料とバインダー（展色材）が練り合わされて作られます。

絵の具に種類の違いというのは基本的に、このバインダーに違いから生まれています。

アクリル絵の具と水彩絵の具の違いも、基本的にこの部分が違います。

アクリル絵の具はバインダーにアクリル樹脂（アクリルエマルジョン）が使われています。

つまり顔料とアクリル樹脂を練り合わせるとアクリル絵の具が作れるわけです。

水彩絵の具は顔料をアラビアゴムという材料と混ぜ合わせることで、作られています。

このバインダーの違いによって両者の絵の具の違いが生まれているんですね。

では具体的にどのような点が違うのか見ていきましょう。

水彩絵の具のアクリル絵の具を比べた際の違いとして耐久性の違いというものがありません。

水彩絵の具を使う際は耐久性に対して気を配らなければいけません。

安価なものを使うと耐久性が非常に悪く、すぐに色が変わってしまいます。

特に水彩絵の具の中でも、ポスター制作に使われる「ポスターカラー」などは作品制作には使わないほうが良いです。

使用されている材料がチープですぐに劣化してしまいます。

もともとデザインに使われていて、原画から複製されることを前提としていたために耐久性が低いのです。もし原画を作品とするなら使わない選択がベターです。

アクリル絵の具の場合は特徴として非常に強力な耐久性が挙げられます。

基本的にアクリル絵の具で描いたものは変色やひび割れなどの心配はほとんどないと言っているので、初心者の方でもあまり心配しなくて良いと思います。

また、描ける素材も違います

水彩絵の具は水に溶かして紙の上に描くことが一般的です。

水に溶かして使う絵の具なので紙を使うのが一番相性が良いんですね。

水彩絵の具は分類すると透明水彩と不透明水彩があります。透明水彩を使う場合、紙の白を残しながら描くのがコツです。

絵の中の一番明るい部分に紙の白を使うという考え方です。

もし紙の白ではなく絵の具の白を使いたい場合は不透明水彩を併用してみるのも良いかもしれません。最後に乗せるハイライトだけ不透明絵の具で描く、みたいな感じですよ。

対してアクリル絵の具は紙だけでなく色々な支持体（描かれる材料）に適しています。

例えばキャンバスや板などにも簡単に塗れますし、コンクリートやセメントなどに重ねることも可能です。

またプライマーという塗料を使えばガラスや金属などに塗ることも出来ます。

絵を描くのはもちろんですが、他にも色々なことに使える絵の具ですね。

また、出せるタッチも違います。

水彩絵の具は水で溶かして描くので、にじみなどのタッチをつける技法が簡単に行えます。

偶然にできるにじみ、ボカシなど色々な表情に興味がある方には向いていると思います。

アクリル絵の具は紙の上に水で溶いて水彩絵の具のような使い方もできます。

また水彩画では難しい、油絵の具のような厚塗りもメディウムを使えば簡単に行えますので、色々な表現にチャレンジしてみたい方にはアクリル絵の具をオススメします。

第1章ー③アクリル絵の具を使う場合アトリエは必要ない？



アナログで絵を描いている人、もしくはこれから描こうとしている人なら一度はアトリエの必要性に悩んだ事があるのではないのでしょうか？

作品の保管や臭いの問題、はたまた汚れの問題などなど・・・。

普段の生活空間で絵を描こうとなると色々壁が立ちほだかりそうです。

**でも大丈夫です！！これらの問題もクリーンに解決してくれる画材があります。
それがアクリル絵の具なんですね。**

アクリル絵の具は乾燥が早い、匂いがほとんどしないなど利便性が高く、現在多くのメーカーが競い合って色々な種類のアクリル絵の

具が出ています。（有名なメーカーだと「ホルベイン」とか「リキテックス」とかですね。）

ここでは

- 「匂い」
- 「汚れ」
- 「保管」

の3つのポイントからアクリル絵の具のメリットについて解説していきます！！

まず、アクリル絵の具はほとんど「無臭」といっていいレベルです。

まあ、もちろん全く匂いがしないわけではあ

りません。

しかし一般的に匂いがきついと言われる油絵具と比べたら無臭と違って差し支えないレベルです。

なぜアクリル絵の具は匂いが気にならないのでしょうか？

油絵具を例に出して説明していきます。

油絵具は薄めたり、溶かしたりするのに画溶液というものを使います。この画溶液というのは、おおまかにいうと二種類の油を混ぜて作られたものになります。（実際には樹脂などほかの要素も入っていますがここでは割愛します。）

「乾性油」、二つ目は「揮発性油」という種類の油です。

油絵具が臭う主な原因として二つめの「揮発性油」が挙げられます。

この揮発性油はシンナー臭がきつく常温で置いておくだけで、どんどん気化して空気中に広がっていきます。

アクリル絵の具の画溶液は何だと思えますか？

答えは「水」ですね！水溶性絵の具なので当たり前ですが。

水で溶かせるので匂いがあまりしないという訳です。

次に汚れについて。

アクリル絵の具はすぐに水で洗えば汚れが落ちます。

書き始める前にまず絵の具を使うときはエプロンなど簡単なものでいいので、最低限の装備を整えましょう。

どんな絵の具でも保存のためにある程度は絵の具が落ちにくい耐性があります。

当たり前ですが服や周りに絵の具が付かないのが一番なわけです。

それでもアクシデントは起こります・・・。

絵の具を水で薄めて描いていたりすると、絵の具が飛んだりする 때가たまにあります。

でも慌てないで下さい。まだ大丈夫です。

アクリル絵の具は乾くと耐水性になってしま

い落ちにくいですが、乾く前は水に溶けるので洗えば結構落ちやすいです。

僕の場合、水ですぐにゴシゴシやればたいてい落ちます。

しかしその絵の具が顔料ではなく染料で作られた絵の具だったりする時は落ちにくかったりするものです。

そんなときは台所洗剤とクレンザーをつけて歯ブラシでこすると更に効果が高まりますよ！

次に保管という観点について。

僕は絵を始めたのは高校3年生くらいの時なのですが、最初の何年間は油絵具を使ってい

ました。

絵の具の使い方なんてチンプンカンプンでしたが、何日もかけて楽しく絵を描いていました。

そしていよいよ作品が完成したぞ！と席を立ちあがったその時！

服をイーゼルにひっかけてガッシャーン！！

絵は床にベッタリ・・・・・・・・。

もちろん油絵具がそんなにすぐに乾くはずもないので表面はホコリまみれのゴミまみれ。

悪夢を味わいました。

これはまあ僕がアホなんで起こったアクシデントですが、乾燥が遅い絵の具だとどうしても乾燥待ちの間にホコリがくっついてしまい取れなくなっちゃうなんてことよくあることです。（油絵具だと3日くらい乾燥に時間がかかります。）

しかし、アクリル絵の具なら防げるんですね。

アクリルのメリットの一つに乾燥が早いという点が挙げられます。

大体の場合塗ってから5分から10分もあれば触ってもくっつきません。

僕の場合ドライヤーで乾燥を早めたりするので30秒くらい。

乾燥が早いということは作品の表面を上にし

て保管もできるし他の作品と重ねて置いていけるので管理が楽ということに繋がります。

第2章ー①アクリル絵の具は 両極端な使い方も可能



さて、アクリル絵の具の基本的な使い方ですが、先ほども少しお話したようにアクリル絵の具は色々な使い方が出来ます。

だからこそ少し複雑な認識になってしまっている部分はあるのですが、。

ここでは基本的な使い方として2つの描き方を紹介してみようと思います。

2つの使い方を分けるのは水の量です。

具体的に言うと水分量を多くすると水彩絵の具風に、水分量を少なくすると油絵風に、それぞれ使い分けることが出来るんですね。

1つの絵の具でそこまで両極端の画風を描い

ていける！ということです。

では実際にどのようにすればそれぞれの使い方
で絵を描けるのか見ていきましょう。

第2章ー②水彩画のような使い方とは？



まずは水彩画のように描く方法から解説して
いきますね！

水彩画のように描いていく場合、にじみを上手く使っていくと良いと思います。

なのでキャンバスでなく、水彩紙の上に描いていきます。

個人的にこうした場合にお勧めしているのが、「ブロックタイプ」の水彩紙です。

ブロックタイプって何だ？という方もいると思うので解説しますね！

ブロックタイプというのは10枚から20枚くらいの水彩紙が重なって出来ている製品のことです。

このタイプの水彩紙は紙の四辺が糊で固定さ

れているので、水を使って絵を描く際に紙がよれにくく便利なんですね。

たっぷり水の量を使う場合は流石によれてきますが、そこまでビシャビシャにしないのなら水張りなどをしなくてもいいので便利でオススメですよ！

こうした水彩紙の上にアクリル絵の具を水で溶かして乗せていきます。

アクリル絵の具は水溶性絵の具なので水彩絵の具と同じ要領で溶かすことができます。

この場合、筆は普通に水彩用の物を使えば問題ありません。

僕は水彩のようにアクリル絵の具を使う場合

は、ナイロン毛の物を使うことが多いです。

程よい含みと腰があるのでお勧めですよ。

第2章ー③油絵のような使い方とは？



次に油絵具のような使い方を解説していきます。

油絵具は水彩絵の具のようにあまり溶剤を入れずに描くのが基本です。

油絵具の場合ほんの少し流動性を与えたい場合に油を加えたりします。

なのでアクリル絵の具を油絵具のように使う場合、水をほとんど加えずに描いていくことになります。

水彩絵の具だとこういう描き方は難しいですが、アクリルだと出来るんですね。

ここはアクリル絵の具を使う大きなメリットでもあります。

水の量だけで水彩絵の具のようにも油絵具のようにも描けてしまうわけです。

ここに「メディウム」を加えたりすることで盛り上がった透明感のあるタッチなどを作ることも可能です。

第3章ー①アクリル絵の具の 技法とは？



ここまででアクリル絵の具のメリットや基本的な使い方を見てきました。

ここからは少し踏み込んだアクリル絵の具のテクニックを解説してみようかと思います。

さて、アクリル絵の具の技法という事なんですが、先ほどもお話ししたようにアクリル絵の具は色々な画材の技法を使うことが出来ます。

つまり、水彩絵の具の技法も取り入れることが出来るし、油絵具の技法を取り入れることも出来るわけなんです。

簡単に言ってしまうえば色んな描き方ができちゃうわけです。

ここでは、そんなたくさんあるアクリル絵の技法について解説していきますね。

ちなみにそれぞれの技法に名前が付いていたりしますが、名前なんて割とどうでもいいので覚えなくていいと思います。

絵を描いていく中で自分で使えるかどうかのほうが重要です。

では一つずつ見ていきましょう！

第3章ー②技法1 「ウェット・イン・ウェット」



ウェット・イン・ウェットという言葉は聞きなれない方もいるかもしれません。

これは水彩でよく聞く技法ですね。

濡れている紙の上に水で溶いた絵の具を置いていく技法です。

和訳したまんまの意味です。

濡れた紙などに水を含んだ絵の具を置くと、じわっとした質感で絵の具がにじんでいきます。

こうした効果を狙うのによく使われる描き方ですね。

アクリル絵の具でも水彩画のようにこの技法を使うことができます。

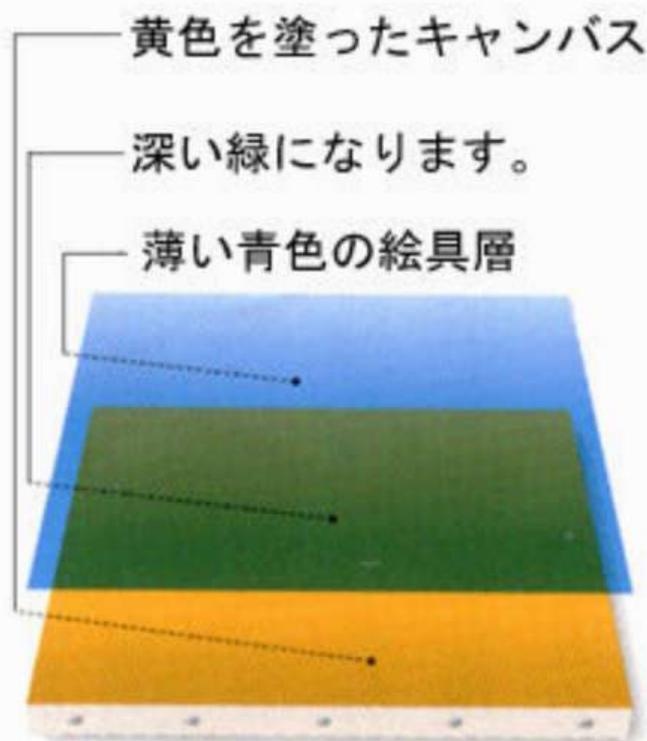
もし、この技法にチャレンジしてみたいのであれば、まず水彩画用紙を用意して紙の上を刷毛などでしっかり濡らししょう。

それから筆に水を多めに含ませた絵の具

を筆にとって、それから紙の上に描いてみると良いです。

水の効果によってじわーっと絵の具が広がっていくので面白い効果が狙えますよ。

第3章ー③技法2 「グレース 技法」



グレース技法は油彩画よく使われる描き方です。

この技法は非常に伝統的なものとして扱われ

ています。

といってもアクリル絵の具でも同じように使えるのでご心配なく。

どういう技法なのかというと、透明な色を薄くキャンバスに重ねていく描き方なんですね。

そしてグレース技法は本当に色々な場面で使われます。

- ・色を鮮やかにする時
- ・色味を変えたい時
- ・色を暗くしたい時

などなど。

例えばあなたがリンゴを描いているとしまし

よう。

途中までは白や黒を混ぜているのでなかなか鮮やかには描けない場合、完成に向けて赤い透明色を薄くかけてあげるんですね。

そうすると、あら不思議！

一気に鮮やかなリンゴに描けてしまうんです。

これは透明色を使うというのがポイントです。

何故かという透明色を使うことで下の層の描き込みを消さずに色を鮮やかにしたりすることが出来るからです。

不透明の絵の具でやってしまうと下の描き込みは全て覆いつくされてしまい見えなくなってしまうのです。

なので透明色で行うというのが必須のポイントになるわけです。

これはかなり便利な描き方なので覚えるのは必須と言えらると思います。

アクリル絵の具も最近はかなり透明度が高いため油絵で使われていたグレイズ技法も簡単にできてしまうので是非使ってみてください！

第3章ー④技法3 「スカンブル技法」



先ほどはグレース技法という油絵でよく使われている技法を紹介しました。

続けて紹介するのは、スカンブルという描き方です。

こちらでもアクリル絵の具で簡単に使うことができます。

こちらでも、薄く絵の具を重ねるという描き方です。

グレース技法に非常によく似たテクニックですね。

しかし違う部分があります。

それは何かというと使われる絵の具の透明度なんですね。

先ほどのグレース技法は透明な絵の具を重ねるテクニックだと紹介しました。

しかしこちらのスキャンブル技法は半透明の絵の具を重ねる描き方です。

半透明というのがポイントですね。

半透明だと下の層の描き込みなどが完全には消えずにうっすら見えるのです。

この方法を使えば例えば風景画で霧がかかったモヤを描くなんかに役立ったりします。

普通に描いた風景に薄く半透明の白を重ねることでいい感じにうっすらと見える霧のような表情を作れたりします。

使い方次第で色々な用途に役立てることが可能なテクニックですよ。

第3章ー⑤技法4 「グラデー ション技法」



グラデーション技法というのは皆さん分かるんじゃないかなと思います。

キャンバスなどにグラデーションを作る描き方です。

アクリル絵の具を使うことでグラデーションは簡単に作ることが出来ます。

少し絵を描いたことがある方は感じた事もあるかもしれませんが、乾燥の早いアクリル絵の具は油絵の具などと比べてぼかしたりするのが苦手です。

しかしこれはそのままアクリル絵の具を使った場合の話です。

アクリル絵の具はメディウムという物を混ぜることで乾燥速度を遅らせることができます。

グラデーションを作る際はそのような工夫をしてあげることで、きれいなグラデーションやぼかしの描き方をすることが出来るんですね。

グラデーションに使えるのはリターダーというメディウムになります。

リターダーというのは遅乾剤とも呼ばれ感想を遅くしてくれる材料なんですね。

第3章ー⑥技法5 「インパスト技法」



インパスト技法というのは油絵のように盛り上げて描く方法です。

日本だと印象派やポスト印象派が人気ですが、そのような描き方の事ですね。

モネやルノワール、ゴッホなどの事です。

彼らは油絵具を溶剤で溶かさずに固めの筆で
とってキャンバスに乗せていました。

そのように描く事で薄く描く方法とは違った
ゴツゴツとタッチの力強い絵を描いていたわけ
ですね。

こうした描き方はアクリル絵の具でも真似することが可能です。

油絵具で描くときのように絵の具には水を付けずに固めの筆で絵の具を取って描いてみてください。

そうすると結構厚く塗れるのが分かるかと思います。

しかし油絵具と違ってアクリル絵の具は乾燥するにしたがって体積が少なくなってしまうます。

これは油絵具とアクリル絵の具の大きな違いです。

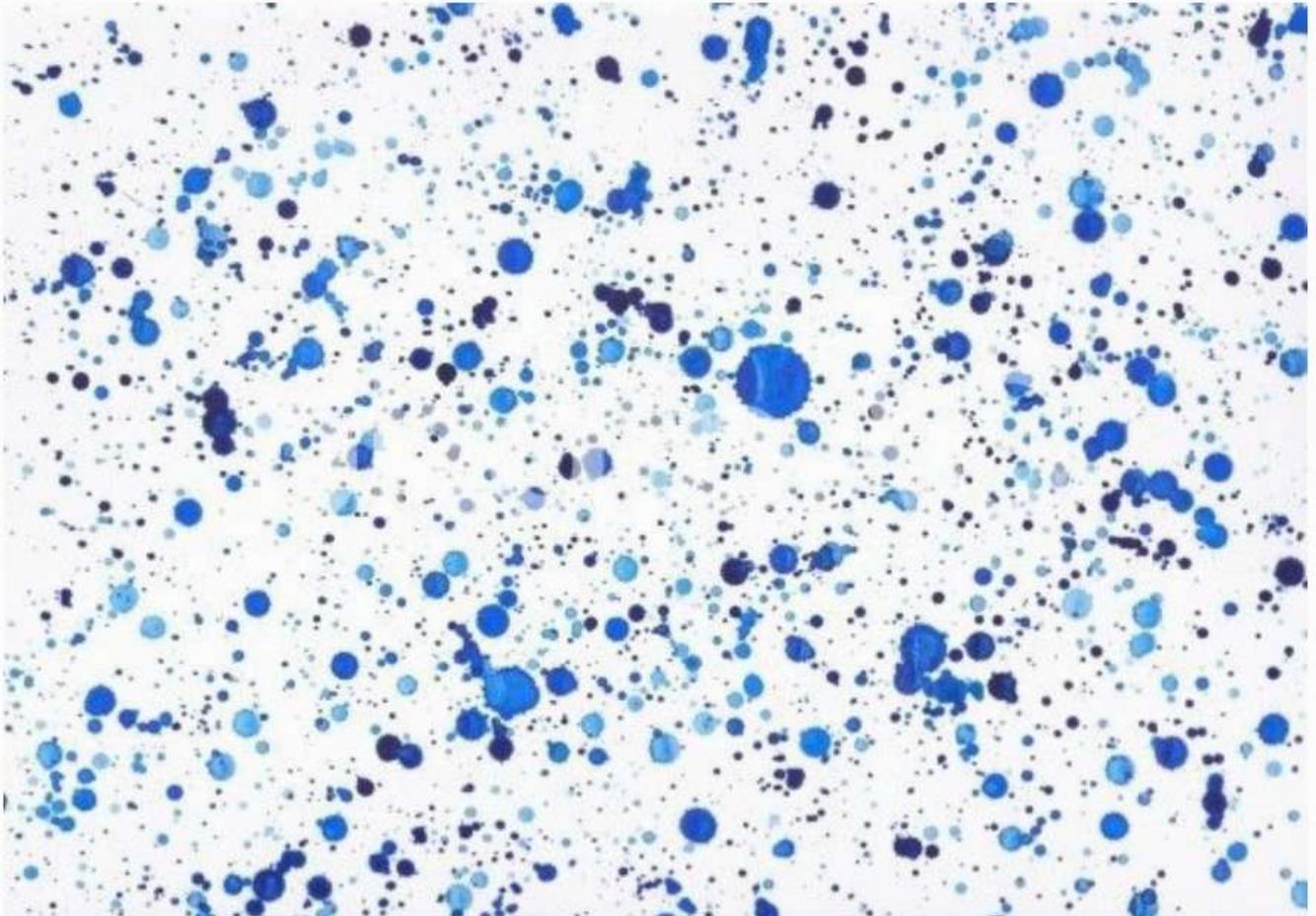
しかしだからと言ってアクリルで厚塗りをあきらめる必要はありません。

そんな時はジェルメディウムというメディウムを使いましょう。

ジェルメディウムは絵の具の練りを固くし体積も減らないように手助けしてくれる材料です。

上手くメディウムを使うことでアクリル絵の具の表現はグンと豊かになっていくんですね。

第3章ー⑦技法6 「スパッタリング技法」



スパッタリング技法というのは聞いたことはありますか？

こちらも少し変わった描き方になっています。

この技法も元々油絵具で使われていたテクニックですが、アクリル絵の具で行うことができます。

このスパッタリング技法は絵の具を飛沫状にして飛ばす、という描き方ですね。

絵の具に水を加えて薄めることで、まず液体状にします。

それを少し硬めの筆に含ませて、それから指で弾いていきます。

そうすると筆に含まれていた絵の具が点状の

飛沫になってキャンバスに飛んで付いていくわけです。

この描き方は色々な場面で使えるので便利ですよ。

例えば質感を描くとき。

砂や石などを描くときにランダムな点描を打つことで質感を描いていくことが出来るんですね。

ふつうに筆で点を描いて砂っぽさの質感を描いてあげるよりも自然な感じで描けたりします。

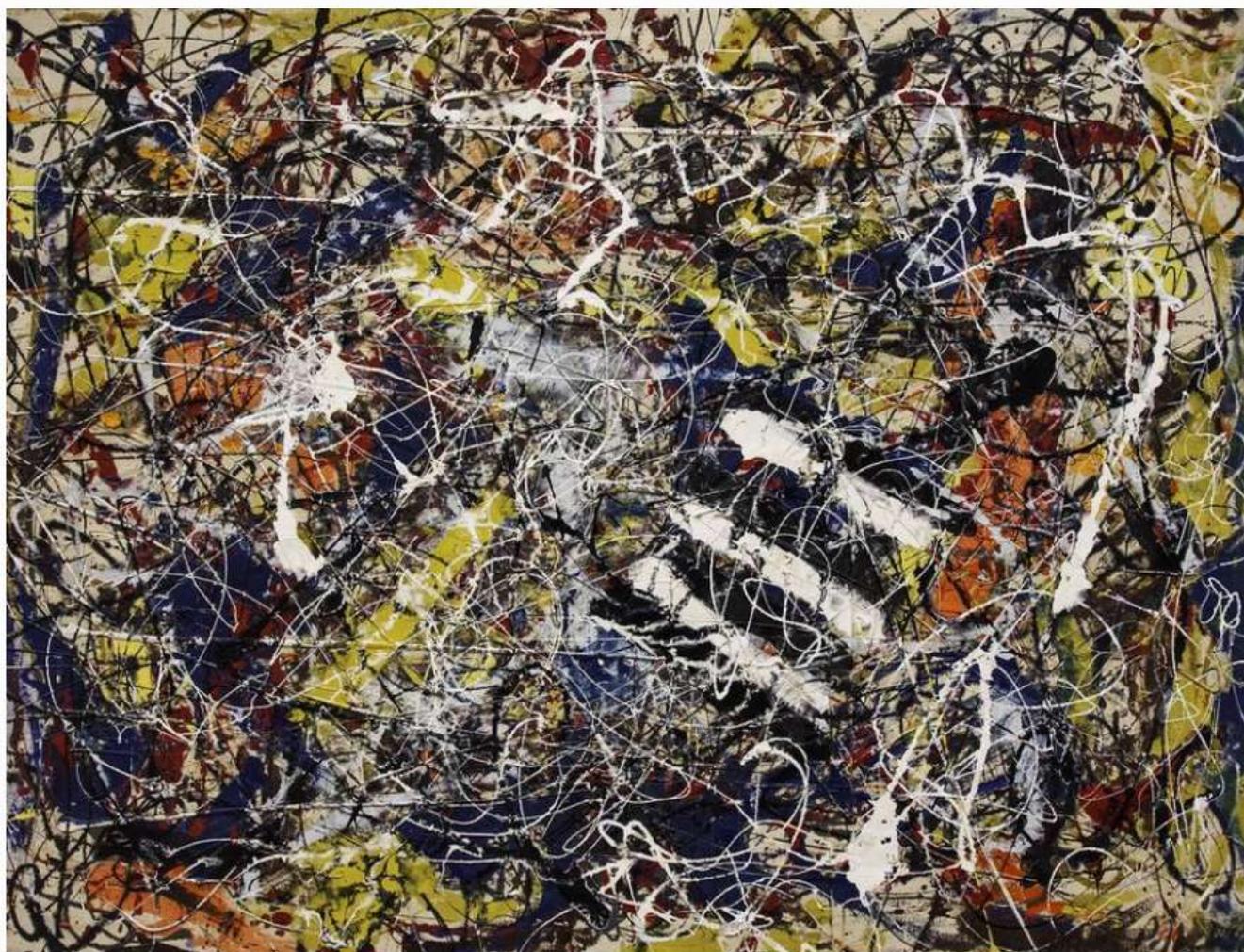
もちろんそうした質感だけでなく工夫次第で色々な質感を描いていくことが出来るので試

してみてください。

また明るい部分にスパッタリングをたくさん重ねていくことで、画面を暗くしたりという使い方もできます。

本当に工夫次第で色々な絵で使えるので考えるのも楽しみの1つですね。

第3章ー⑧技法7 「ドリツピ ング技法」



ドリッピング技法というのは、少しスパッタリングに似ている部分がありますね。

どういうことかということ、こちらも同様に絵の具の飛沫を使った技法なんです。

しかし一般的には意味合いがちょっと異なります。

もともとこの技法を使ったのは「ジャクソンポロック」などの20世紀中盤のアメリカの画家達です。

彼らはアクションペインティングという方法で絵を描いていました。

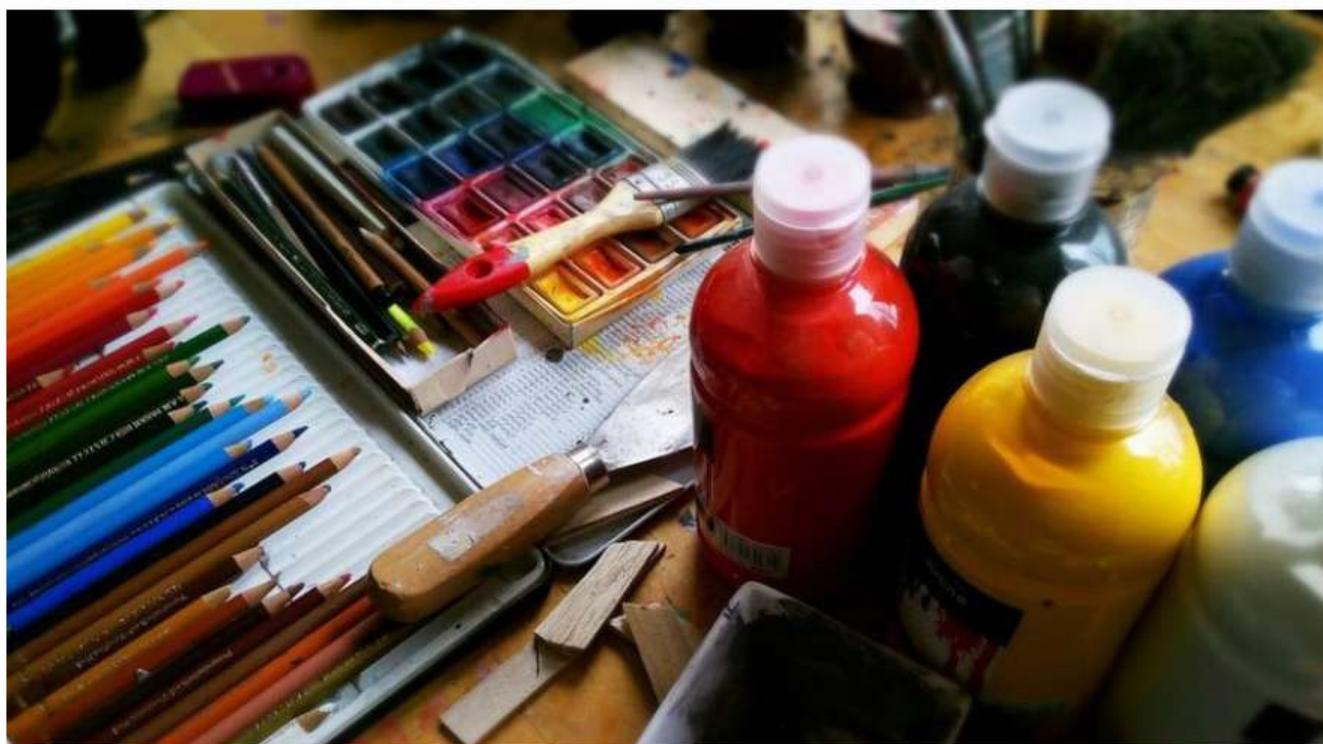
アクションペインティングの絵は描かれているモチーフ等は分からない抽象画です。

筆に大量に絵の具を取ってキャンバスの上にぶちまけたりして描いているんです。

絵そのものというよりかはどちらかというと体全体を使って描いた痕跡そのものを作品にしたような感じなんですね。

なのでスパッタリングのような細かい感じの描き方ではなく、大胆で絵の具を体の動きに任せてぶちまけるような描き方になっています。

第3章一⑨技法8 「ミクスト メディア技法」



ミクストメディアというのは言葉通りいくつ
かのメディアをミックスさせたという意味で
す。

ここでは異なる画材などを一緒にミックスさせて作った作品という風に考えてもらえればいいんじゃないかと思います。

例えば・・・

「アクリル絵の具と水彩絵の具を合わせて使ってみる！」とか、

「アクリル絵の具と油絵具を組み合わせて併用してみる」とか、

そんな感じの描き方ですね。

僕であればたまにアクリル絵の具と油絵具を併用したりするので、それはミクストメディア技法を使っているという事になりますね。

ただし、画材の組み合わせには相性やルールがあるので使い方を間違えないようにする必要があります。

例をだすとアクリル絵の具と油絵具を併用したりする場合には、ルールがあります。

こういったルールかということ、アクリル絵の具の上に油絵具を塗るのは構わないけど、油絵具の上にアクリル絵の具を塗ってはいけないというようなことです。

アクリル絵の具は油絵具の上に塗ると固着できずに剥がれてしまいます。

こうしたルールもあるので複数の画材を組み合わせるときには注意が必要な場合もあります。

といっても組み合わせると描き方の幅も広がって楽しいので是非色々研究してみると良いかなと思います。

第3章ー⑩技法9 「ドライブラシ技法」



ドライブラシ技法はその名の通りドライなブラシを使う描き方です。

つまり乾燥気味の筆を使うんですね。

絵の具を少量筆に付けて、それをキャンバスや紙などの上にかすれさせるように描くんです。

この技法を行うときに注意しないといけないのは絵の具の量と水分量です。

あまりたくさん絵の具や水を筆が含んでいると、かすれさせることが出来ません。

べったり絵の具が付いてしまい先ほど紹介したインパスト技法のようになってしまいます。

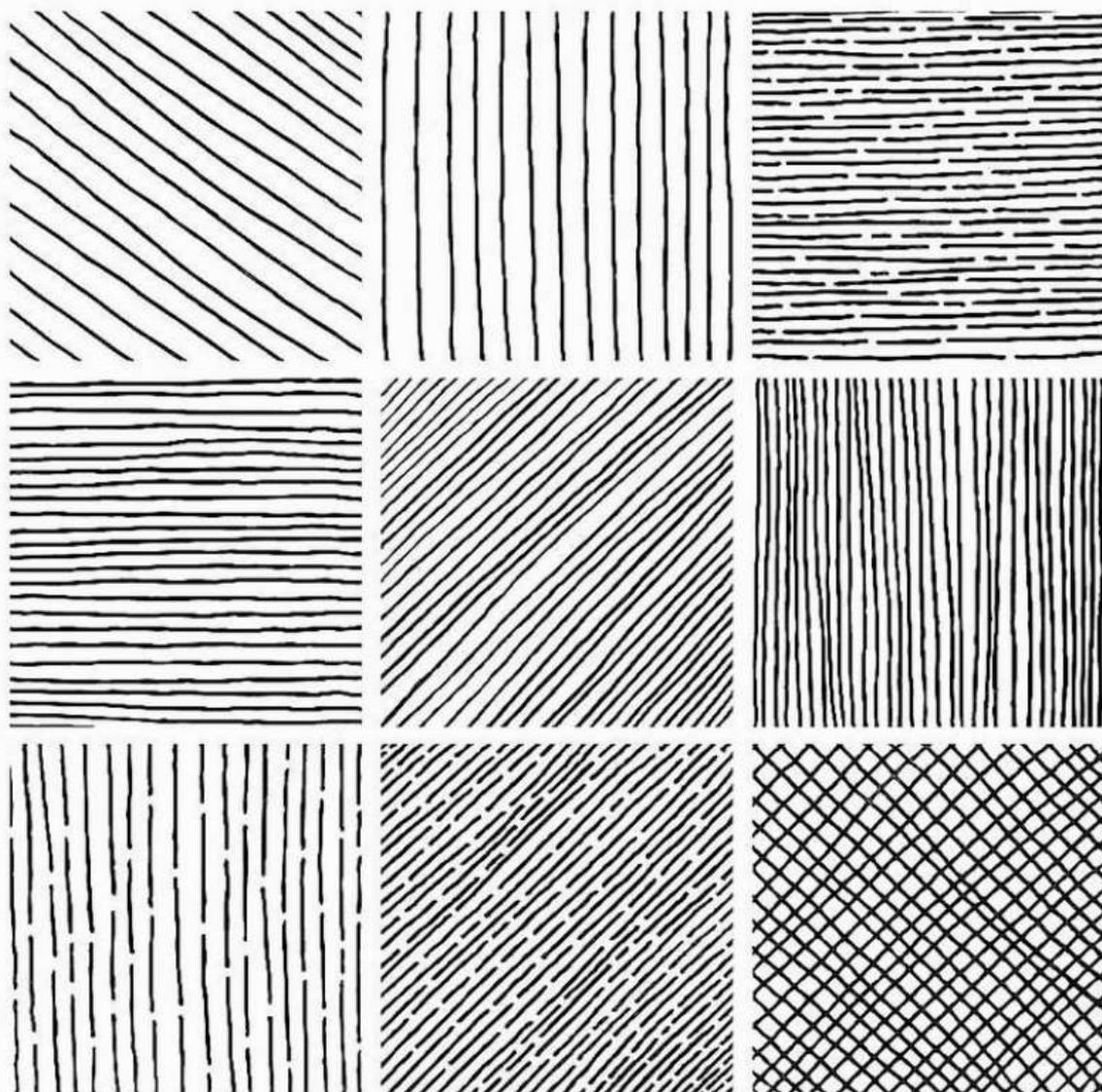
なのでそこは注意が必要ですね。

あと筆をかすらせる時は紙やキャンバスがデコボコのほうが面白い効果を得られます。

凹凸があることで、絵の具が付く部分と付かない部分が出来るので面白い表情が出やすいですね。

是非この描き方を試すときは、このような部分に注意して行ってみてください。

第3章ー⑪技法10 「ハッチング技法」



ハッチングという言葉は結構聞いたことがある人もいないのではないのでしょうか。

漫画などの表現でも暗くしたい部分に何回も線を重ねて描いたりしていますよね。

とくに影の部分の表現に使われることが多いと思います。

これがハッチング技法です。

縦横に線を交互に組み合わさって重ねたり、斜めに線を重ねたりと、いろいろな描き方がされますが共通点は線を使うという事ですね。

線を使った描き方なわけです。

漫画だとペンを使っていますが絵の具でも描くことができます。

筆で線を引くのは難しそうと思われるかもしれませんが、やり方を知って慣れていけば針より細い先だって引けるんですよ。

コツとしては、「筆の選び方」と「絵の具の水分量」に注意すること。

筆が太いと細い線が引けないのでハッチングは難しくなります。

僕がおススメするのはカムロンプロという筆です。

僕が実際に細密に描くときに使っている筆になります。

あとは絵の具の水分量ですね。

アクリル絵の具はチューブから出した状態だと固いので、水分を多めに加えると筆に対する含みが良くなって細かく描きやすい濃度になりますよ。

インクのようになるくらいに水を加えてあげると非常に伸びが良くなって描きやすいですね。

第3章ー⑫技法11 「カラー ジュ技法」



コラージュ技法というのは、例えば一つのキャンバスや画用紙に他の紙などの素材を張り付けて一つの絵を作っていく技法です。

どんどん張り付けていくようなイメージですね。

色々な種類の紙や布を張り付けていくことで、独特の絵を描く事が出来る方法です。

色々な方がチャレンジしているジャンルでもあります。

ここで重要なのが何で張り付けるのかということなのです。

実は貼り付けに使う画材で、アクリル絵の具のメディウムが活躍するんですね。

「ジェルメディウム」と呼ばれるメディウムになります。

ジェルメディウムは絵の具に混ぜることで固くしてタッチを付けやすくしたり、透明度を上げることのできる材料です。

しかしもう一つの用途として、糊の役割もあるんです。

非常に粘着力が強く何かを張り付けるという
場合にも重宝するんですね。

これは一般的な使われ方とは違いますがかな
り便利な特徴です。

普通の糊などを使うよりも接着力が安定する
のでおススメですね。

このジェルメディウムを使えば布でも紙でも簡単に張り付けてしまえます。

特に薄めたりせずに使えるので利便性も高いですよ。

コラージュ技法に挑戦する際は是非ジェルメディウムを使ってみてください。

第3章一⑬技法12「箔技法」



箔技法というのは金箔などの箔を使って絵を描く技法の事です。

金箔などは過去の日本の絵にも使われていましたし、西洋の世界でも祭壇画に使われていたり絵の世界では身近な材料です。

この技法をしっかりと使えるとかなり高級感のある絵が描けます。

また箔というのは単体では接着しません。

金属を薄く伸ばしたフィルムのような物なので、ただ乗せただけではくっつかないんです。

なので必ず接着剤が必要になります。

そこで先ほどもコラージュ技法で使えるという説明をしたジェルメディウムがここでも活躍します。

ジェルメディウムを水に溶かして液体状にしてキャンバスなどに塗布します。

その上に箔を重ねることで貼ることが簡単に可能になるんです。

昔だと膠という天然の材料を使用した糊を使って金箔などは貼られていたのですが、現代のアクリル系の材料で簡単に出来てしまいます。

僕も実際に箔技法を使って制作することがありますがメディウムを使って貼ると非常に楽

ですね。

また、箔は貼っただけでは金属光沢の美しさが発揮できません。

必ず貼った後にはメノウ棒で磨いてあげましょう。

メノウ棒はメノウという石が先端にくっ付いている棒です。

この棒でこすることで表面が金属光沢を放ち鏡のような反射をして輝きだすんです。

絵の具では出せない光沢感を出せるので技法の1つとして覚えておいて損は無いと思いますよ。

また簡易的ではありますがアクリル絵の具にもゴールド色という色が存在し、そちらを使っても金っぽく描く事はできます。

もちろん本物の金箔の輝きには及びません笑

それでも試しに！という方は使ってみると良いかもしれませんね。

第4章ー①ほかの画材と組み合わせて使う方法について解説！

さてここまで様々な技法を紹介して見ましたが、中にはアクリル絵の具だけではなく他の画材と併用して使いたい！という方もいるかと思います。

ここではそうした方のために他の画材と組み合わせる例を紹介してみようかと思っています。

例えば

- ・鉛筆
- ・コンテ

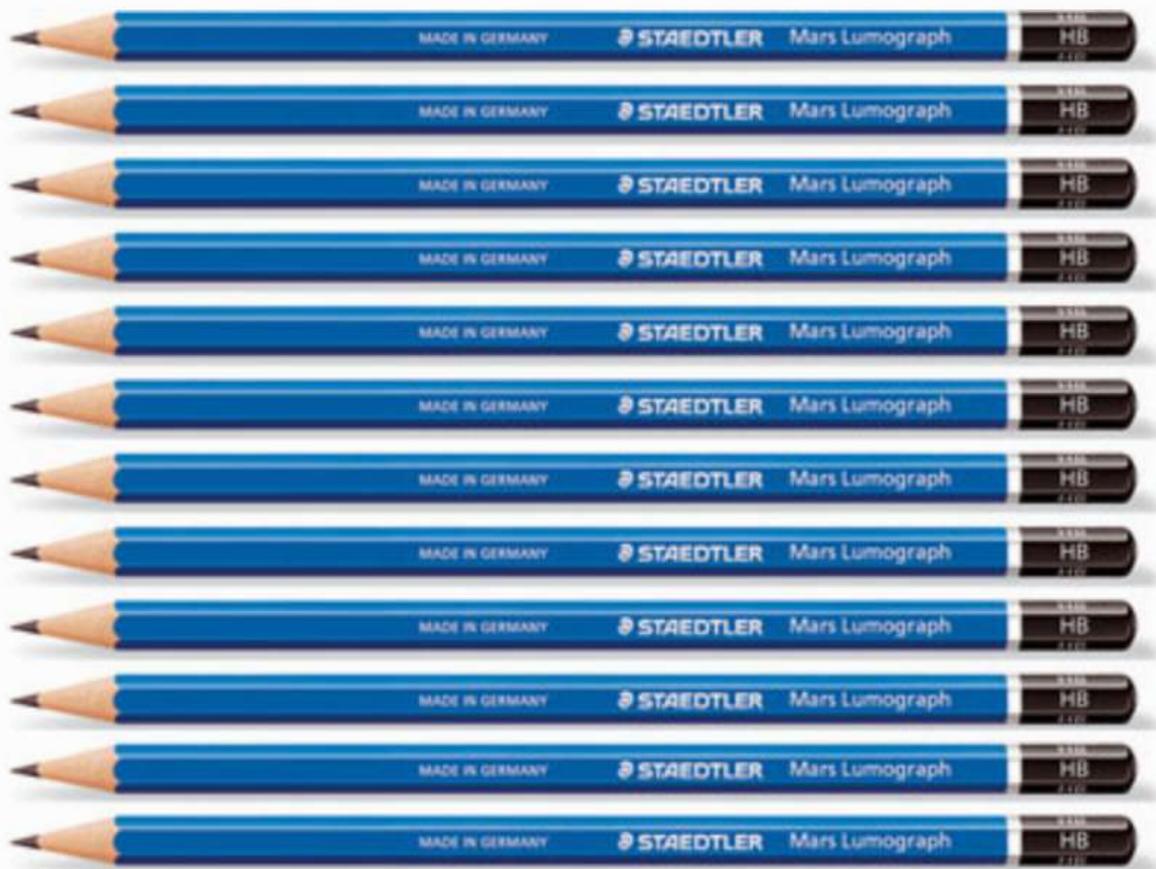
- ・ パステル
- ・ 水彩絵の具
- ・ 油絵具

などの画材との組み合わせですね。

実際使っている方の多いものばかりですし、
組み合わせたいというひとも実際に結構いま
す。

是非参考にしてみてくださいね！

第4章一②鉛筆と組み合わせる使い方



まずは一番オーソドックスな鉛筆とアクリル絵の具の組み合わせについて解説します。

使い方としてはやはり、下描きを鉛筆で行ってからアクリルで描きたいという方が多いんじゃないかなと思います。

これは全く問題なく行うことができます。

例えばざっくりとモチーフの形を鉛筆で取ってから、その上にアクリル絵の具を乗せていくといった感じですね。

しかしこの使い方には一つだけ注意して欲しい部分があります。

それはアクリル絵の具に混ぜた水で下の鉛筆の線が溶けてしまうという点。

完全に溶けて線が見えなくなるという事はあ

りませんが、絵の具に鉛筆の黒い色が混じってしまい作りたい色にならない場合があります。

なので一度この鉛筆の線が取れないようにしたほうが良いです。

ここで使えるのが「フェキサチーフ」というスプレー式の固着液です。

このフェキサチーフは鉛筆などの固着力の弱い画材の上に吹きかける事でしっかりと固着させるものです。

これを使えば鉛筆の下描きなども耐水性にできるので使っていきましょう。

第4章ー③コンテと組み合わせる使い方



次はコンテと組み合わせる場合ですね。

コンテは鉛筆に近い使われ方をされる画材ですね。

主にデッサンや下絵を描くのに使われます。

ただ少し違うのがコンテのほうが面として塗りやすいという部分です。

鉛筆は幅広く色を塗っていくのが少し大変ですが（細いので）、コンテはざっくりと大きい面積を塗れるんですね。

しかしこのコンテも非常に固着力が弱いのです。

なのでコンテを下描きに使う場合も鉛筆の場合と同じようにフェキサチーフを使いましょう。

フェキサチーフで水に溶けないようになります。

そうすれば下絵をしっかりと活かしながら本描きに入れます。

第4章ー④パステルと組み合わせる使い方



次にパステルとの組み合わせ
についてです。

パステルは絵の具などが苦手！という方でも
簡単に扱える画材として人気ですね。

パステルをアクリル絵の具と併用したいとい
う方は、下描きに使うというよりはアクリル
絵の具の上に描きたいという方もいるかと思
います。

結論から言うとこれも全く問題なく出来ます。

実際に僕もアクリル絵の具で描いた上にパステルで描いたりしていたこともあります。

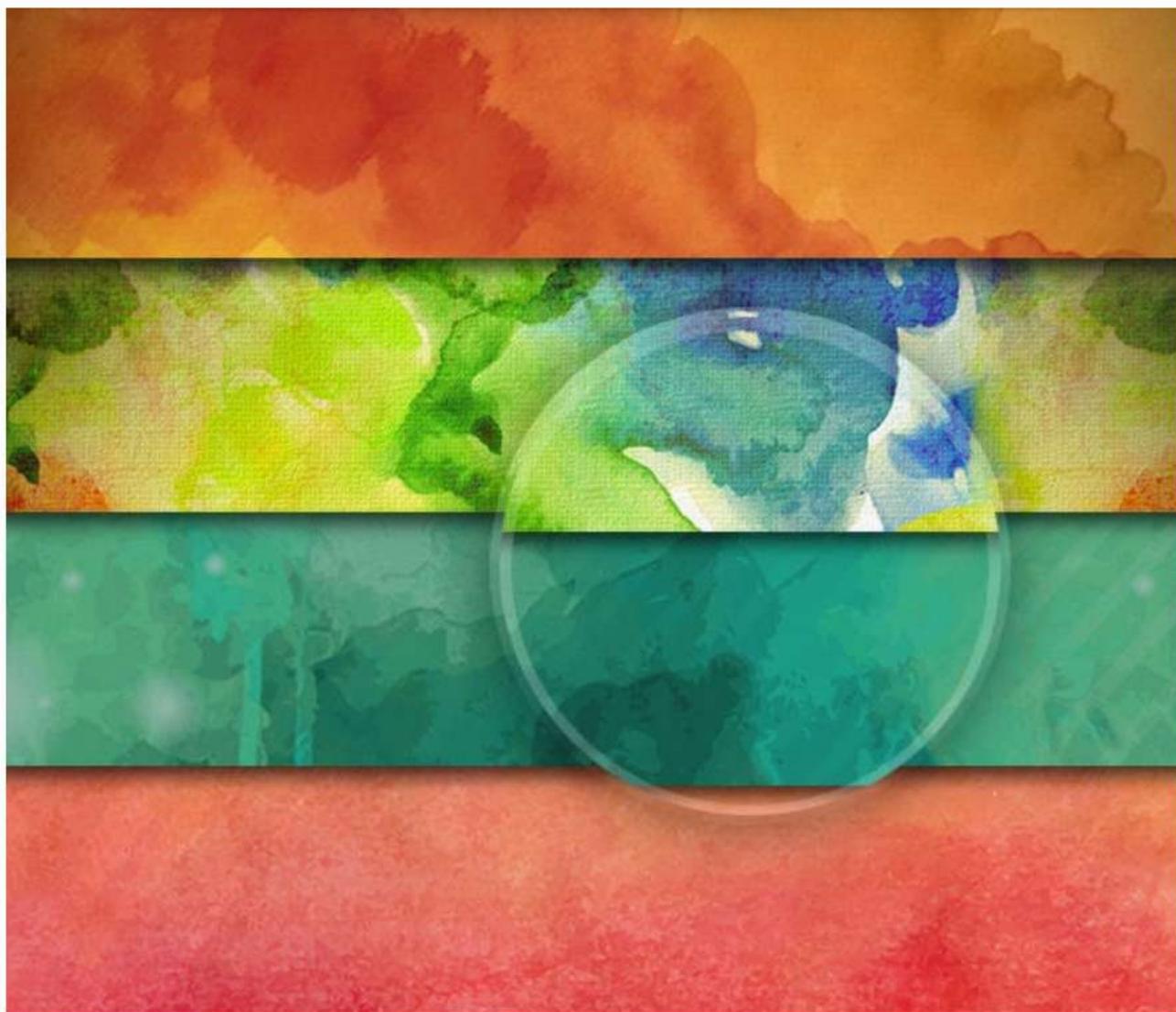
この場合、アクリルの上にパステルを使って完成した後に注意が必要です。

パステルは粉なので上に乗せただけでは手でこすったりしたら取れてしまいます。

なのでこの場合もフェキサチーフをかけてしっかり固着してあげましょう。

固着させた後はアクリル絵の具のニスなども描けることが出来るのでよりしっかりとした強度に仕上げることができます。

第4章一⑤水彩絵の具と組み合わせる使い方



水彩絵の具のと組み合わせについてもお話していきますね。

水彩絵の具を使う場合はなるべくアクリル絵の具の上には使わないようにしたほうが無難です。

アクリル樹脂の上にはしっかりと固着しにくくなる恐れがあります。

なので使うのならアクリル絵の具を重ねる前がいいです。

水彩絵の具の層の上に、アクリル絵の具が乗っかるようなイメージです。

ただ一つだけ注意したほうがいい点があります。

それは水彩絵の具はアクリル絵の具と違って耐水性ではないという点です。

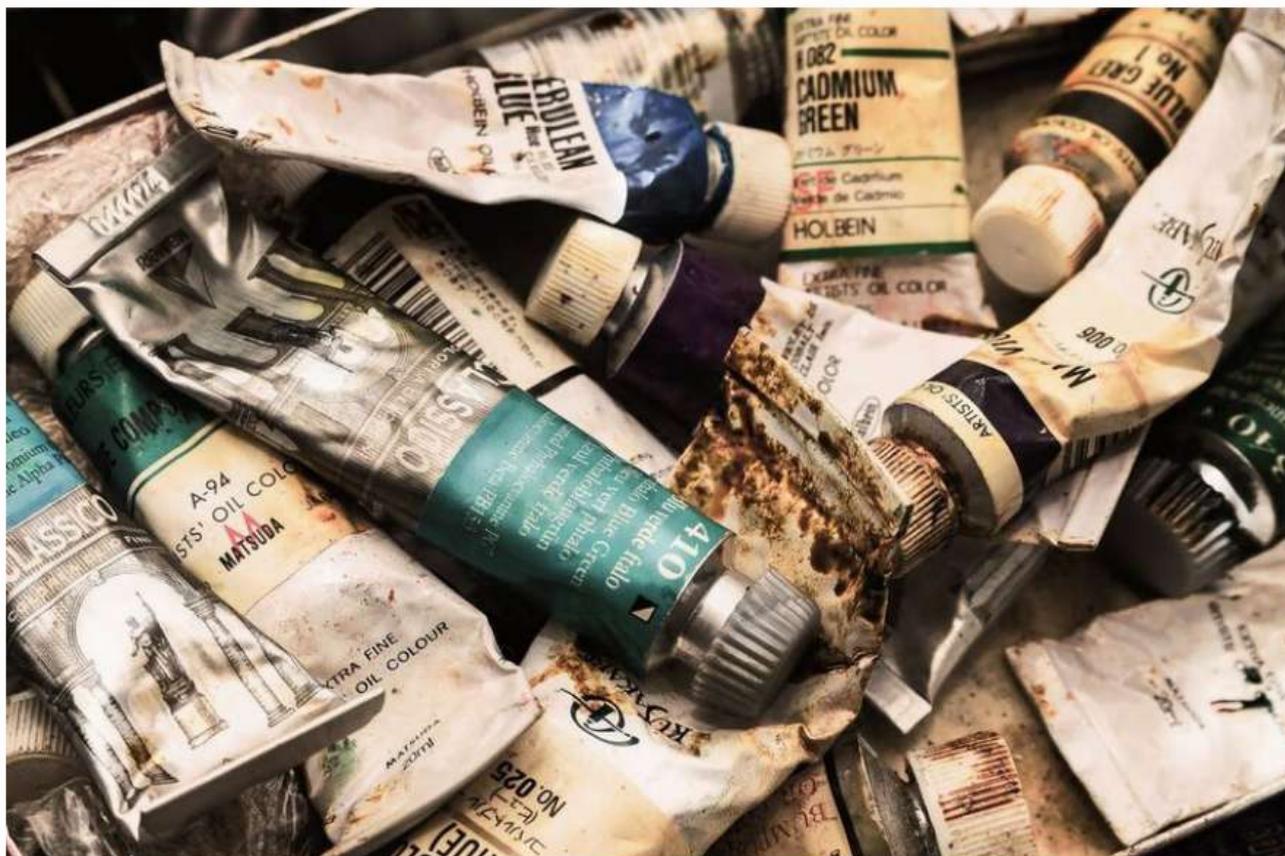
つまり水彩絵の具で描いた層の上に大量の水で溶いたアクリル絵の具を重ねると溶けてしまう場合があるんですね。

この場合、先ほども紹介に出たフェキサチーフをかけて耐水の層を作るという手もあります。

あとはアクリル絵の具を薄めずに厚く塗るという方法です。

厚塗りなら下の水彩の層が溶けてしまう事もないので安心ですね（水分量が少ないため）。

第4章一⑥油絵具と組み合わせる使い方



さて、油絵具と併用する際の注意点についてもお話しておきましょう。

油絵具は他の画材より扱いが難しくルールも多いのでちょっと難しい部分もあります。

しかし原則的なルールを守ればアクリル絵の具と併用するのは非常に簡単です。

そのルールは何なのかというと、

「アクリル絵の具は油絵具の上に塗ってはいけない」

というものです。

このルールは絶対に守って絵を描いたほうがいいです。

それは何故かというと、油絵具の上にアクリ

ル絵の具を乗せるとそのアクリル絵の具は剥がれてしまうんですね。

いったんアクリル絵の具は塗れたように感じるのですが、乾いた後に固着できずに剥がれてしまうということです。

逆は全く問題なく行えます。

アクリル絵の具の上に油絵具を塗る、という事です。

なので使い方としてはアクリル絵の具でざっくりと下描きをした後に、油絵具でじっくり完成させていくみたいな感じですね。

是非試してみてください。

第5章ー①用意すると便利な アクリル絵の具と画材について

実際に僕が絵を描く際に使っている道具を紹介していきます。

おすすめの絵の具ブランドや使いやすい筆を始め、色々なアイテムなどです。

また、画材を揃える場合一度に全て用意する必要はないと思います。

一度に揃えてもいきなり全ては使わないない場合が多いですし、道具によって使う頻度もバラバラです。

上達するにつれて使うものも多くなっていきますが、その都度必要なものを増やしていけばいいかな、と思いますよ。

是非、道具を揃える際のお役に立てていただければと思います。

第5章ー②アクリル絵の具

それでは絵の具の説明からしていこうと思います。

僕がおススメしているアクリル絵の具は「リキテックス」というメーカーです。

実際に僕も使っていますし、品質も良いです。

ただ、リキテックスが良いと言っても複数のブランドを発売しているので若干複雑です。

リキテックスがいくつかのアクリル絵の具を販売しているという事です。

その中でも僕が最もおすすめしているのが、
「リキテックスプライム」
という種類の絵の具です。

Liquitex[®]
PRIME



非常に透明感が高く重ね塗りに最適です。

このシリーズは透明度の高い絵の具が多いのがメリットですが、特に透明である必要が無い色に関しては他の絵の具を使う場合も多いです。

白や黒などは大容量のシリーズを使う事もありますね。

ターレンスジャパンのアムステルダムというシリーズの絵の具や、リキテックスのベーシックというシリーズの絵の具などです。



こちらはどちらもそこまで大きく違うもので

もないのでどちらを使っても大丈夫です。

僕はアムステルダムのほうが近場で手に入りやすいのでアムステルダムをよく使っています。

リキテックスプライムでももちろん構いませんが、白と黒はリキテックスプライムでも不透明なので、わざわざ値段の張るものを買わなくても良いかなとは思っています。（リキテックスプライムは透明度の高い色に使うと効果的です）

ちなみに白と黒は数種類ありますが、白はチタニウムホワイト黒はオキサイドブラックを僕はよく使っています。

第5章ー③キャンバスの下地材



下地材はキャンバスを作っていく際に便利なアイテムです。

- ・キャンバスの凸凹
- ・吸収性
- ・下地の色

などを変えることで描きやすくなったり独自性を出したりできます。

僕は下地材を買う際はホルベインの「ジェッソ」をお勧めしています。

ジェッソはアクリル系の下地材なので、アクリル絵の具で描いていく際に非常に相性がよく手軽です。

僕はこの下地材を木製パネルに塗ることでキ

キャンバスを作っていますよ。

フラットで繊細な表現が出来るキャンバスを作ることが可能です。

ホルベインのアクリリック ジェツソ S（微粒子）という製品を僕は使っています。

とても扱いやすくおススメです。

第5章ー④メディウム



メディウムというのは聞きなれないかもしれませんがね。

簡単に言うと絵の具に混ぜることで、絵の具の性質を変化させることの出来る材料です。

難しく聞こえるかもしれませんがそんなこと
はないですよ。

絵の具に混ぜるだけで、透明にしたり、硬練
りにすることが出来るんです。

基本的に僕は「ジェルメディウム」という絵
の具に混ぜて透明感を上げるメディウムを使
うことがあります。

ホルベインの「アクリリック ジェルメディ
ウム」という製品を買えば問題ありません。

これは工夫次第で結構便利に使うことが出来
るので持っておいて損はないです。

第5章ー⑤リターダー



リターダーというのはメディウムの一種ですが、透明にしたり硬くしたりという目的の物ではありません。

リターダーはアクリル絵の具の乾燥速度を遅らせることのできるメディウムなんですね。

乾燥を遅らせることで、かなりボカシの技法などが行いやすくなります。

これも乾燥の速いアクリル絵の具を使う上で便利なアイテムです。

ターナー色彩株式会社の「ゴールデン アクリリックス リターダー」を僕は使っています。

第5章一⑥筆

筆は基本的にナイロン製のものを使います。

筆の多くは動物の毛で出来ていますが、ナイロンは人工のものです。

なので天然のものとは比べて安価で買い揃えやすいです。

かといって使いにくいわけではないです。むしろ僕は天然の筆より使いやすく気に入って使っています。

毛もまとまりがよくバラつきづらいですし、絵の具の含みも良いです。

他には豚の毛などもありますね。

筆はしょっちゅう廃番になったりするので、あまり一つの筆にこだわりすぎなくてもいいと思っています。

毛の種類が同じである程度形の似ているものなら全く同じ型番を買う必要はないですね。

では、簡単に使っている筆を紹介してみようと思います。

「インターロン」 1214

Series **1214**
ロングハンドル
フィルバート



一番使う頻度が高いのが「インターロン」というところが販売している「1214」という製品です。

ちょうど先端が丸みを帯びている形をしていて、これ1つで色々なタッチに対応できます。

また、これはナイロンで作られた筆で絵の具の含みもよく、コシもあるので非常に描きやすくおすすめです。

この筆を使い始めてからかなり時間が経ちますが、いまだに重宝して使っています。

特に使うのが2号と6号というサイズです。

サイズに関しては大きい絵を描くなら大きいサイズを買い足していけば良いと思います。

「アルテージュ」 キャンロンプロ620



細かい部分を描いたりするのに使っているのが、アルテージュという会社が販売しているキャンロンプロ620という筆です。

こちらにもナイロン製で非常に扱いやすいです。

元々細かい部分を描くために動物毛の面相筆を使っていたのですが高いうえにすぐ悪くなるので今では使っていません。

使いやすさだけで言ってもカムロンプロはかなり優秀でずっと愛用しています。

細密に描きたいという方にこれを勧めると皆満足しているのでかなりいい製品なのではないかと思えますよ。

かなり細かく描けます。

使うサイズは5/0というサイズがほとんど

です。

販売されている中でも一番細いものです。

「クサカベ」 PRシリーズ



クサカベが販売している豚の毛で作られた筆

です。

豚の毛は油絵を描く際に使われる事がほとんどですが、僕はアクリル絵の具を使う際にも使います。

毛がナイロンに比べてかなり硬いのでタッチを付けながら描くのに適しています。

また、細かい部分を少しぼかしたい時なんかにも使います。

ほとんど小さいタッチに僕は使うので使うのは、0号という小さいサイズです。

「ナムラ」 NF フィルバード



この筆はナムラという会社が販売しているものになります。

これも豚毛で出来ていますが上のクサカベPRとは形が異なります。

こちらは先端が丸い形になっています。

この筆は少し特殊な使い方にも使いますが、それは実践授業の中で実際に使いながら説明していこうと思います。

「ホルベイン」 Tファン



この筆はホルベイン社が販売している筆になります。

狸毛で作られたもので少しフワツとした柔らかさがあります。

ファン筆といい、扇形をしているのが特徴的です。

主にアクリル絵の具を柔らかくぼかすのに使えます。

サイズは2号を使う事が多いです。

第5章ー⑦キャンバス



キャンバスと書いていますが実際には木枠に布を張っているものは使っていません。僕は絵を描く際には木製のパネルを使用して

います。

布のキャンバスを使わないのは細密な表現が出来るからです。

布のキャンバスというのは布目があるんですが、細かい部分を描く際にかかなり邪魔になってきます。

それらをフラットにしようと思うと、下地材を重ねまくって削る必要があるんです。

こんな手間をかけるくらいなら最初から木製の板に描けばいいので、僕は木製パネルを使っています。

木製パネルはフラットな表面なので細密表現にはかなり適しているんです。

さて木製パネルを使うという事なんですが、木製パネルには2種類あるんです。

「ラワンベニヤ」と「シナベニヤ」というものです。

基本的に「シナベニヤ」を使って描いてほしいと思います。

シナベニヤのほうがフラットで木のアクが出にくいです。

木のアクが出ると絵の具が茶色くなる場合がたまにあります。

インターネットで「シナベニヤ パネル」などと調べると見つかるので、それらを使えば

問題ないですね。

第5章ー⑧エアブラシ



僕は基本的にほとんど筆で描くのですが、

所々ごくごく薄く絵の具を乗せたい場合にエアブラシを使う事があります。

元々筆で行っていた部分の技法の一部をエアブラシで代行してみたところ、効率や精度が上がったので使っています。

といってもいわゆるエアーブラシアーティストのような方々のように使いこなす必要はありません。

エアブラシで最初から最後まで描く！というようなことはないからです。

実際僕のエアブラシの技術というのは全然大したことはないです。

簡単な使い方しかしないからです。

あると便利くらいの認識ですね。

なので高価なエアブラシを購入する必要はないです。

僕が使っているのは中国輸入の1000円～2000円くらいのものです。

それで十二分に描けています。

Amazonで「並行輸入品 エアブラシ」と検索すると安価なものが見つかると思います。

並行輸入ものでOKという認識です。

また、エアブラシを使うにはコンプレッサーという空気を送る機械が必要です。



機械と言っても大きいものではないですし、
手軽に使えます。

コンプレッサーに関しては値段の幅も広いで
すし、音の大きさの違いなどもあるので自分
に合わせて買うと良いと思います。

調べてみると色々な商品がありますし価格帯も広いですよ。

ちなみに僕が使っているコンプレッサーは1万円ちょっとでしたが4年以上壊れることなく使えて重宝しています。

これから絵をしっかりと学んでいきたいのであれば買って損はないと思います。

第5章ー⑨フェキサチーフ



フェキサチーフは簡単に言うと保護スプレーのことです。

主にデッサンなどを完成させたあとにこのスプレーをかけると、鉛筆の粉などがこすっても落ちなくなり保護することができます。

僕の制作では主にキャンバスに下書きをした後に、それが消えないようにするために使います。

ホルベイン社の「ハンディフィキサチフ」というものを買えば問題ありません。

内容量の違うものがいくつかありますがどれでも大丈夫です。

第5章ー⑩パレット



パレットは絵の具を混ぜたりするのに必須のアイテムです。

木製のものと、ペーパーパレットという便利な使い捨ての紙製の製品があります。

ぼくはペーパーパレットの使用を断然おススメします。

アクリル絵の具は固まると簡単には取れませんし、いちいちパレットを洗うのはかなり骨が折れます。

ペーパーパレットは大体20枚くらいの紙が重なって出来ていて、使い終わったらはがして新しいパレットとして使う事が可能です。

第5章ー⑪筆洗バケツ



筆を洗うためのバケツを筆洗バケツといいます。

アクリル絵の具は水性なので使い終わったら、筆洗バケツの中の水で洗う感じですね。

特にこれ！というメーカーはありません。

水をためておいて洗えるバケツはあったら便利というだけです。

第5章ー⑫ マスキングテープ



マスキングテープは主にアクリル絵の具でキッチリと直線を描きたいときに重宝します。

テープを貼った場所に絵の具が乗らないので簡単に直線的に描けるんですね。

また、マスキングテープのノリは非常に弱く簡単にはがれるので絵の上に貼ることができます。

特にどこの会社の物でも良いですが日東のマスキングテープを僕は使っています。

第6章 画材の買い方や揃え方について

amazon

The Amazon logo, featuring the word "amazon" in a bold, black, lowercase sans-serif font. Below the text is a curved orange arrow that starts under the 'a' and points towards the 'n', resembling a smile.

自分のおススメしている画材を紹介してみましたが、いかがでしたか？

もしあなたが画材を買いたいのに、どのアクリル絵の具を買えば良いのかわからないという場合は是非参考にしてみてください。

さて、ここでは実際に絵の具を買う際にどうやって買えばいいのかという事をお話していきます。

そんなの画材屋に行って買えばいいだけじゃないかと思われるかもしれませんが、一つのお店だけでほしいもの全てが揃う場合は非常に少ないです。

例えばホルベインは扱っているけどリキテックスは扱っていない、とかそういうことが本当によくあります。

例えば一番巨大な画材店とされている新宿の世界堂なんかでは、ホルベインのアクリル絵の具は扱っていますがリキテックスプライムは置いてなかったりします（執筆時点で）。

なので僕はアクリル絵の具を買う際はネットで買うことをお勧めしています。

今の時代、アマゾンなどで簡単に画材もそろえる時代ですしね。

無理に実店舗で揃えようとする必要は無いのかなと思います。

無駄に歩き回って疲れてしまうだけかと思います。

しかし筆などは毛の硬さなどを見るためにも実店舗に足を運ぶのもアリかと思いますよ。

もちろんリピートならネット通販で全く問題ないですね。

最後に



さて、この本ではアクリル絵の具を始めとした画材や、その基本的な使い方をお話してきました。

いかがだったでしょうか？

今まであまり絵を描いてきたことのない方には新しい知識が多く含まれていたのではないかな？と思います。

また絵を描いてきた人にもヒントとなる部分があれば僕としては非常に嬉しく思います。絵を描いていくという行為には際限がありません。

自分の理想の表現や作品を実際に描き切るとするのは非常に難しい事だからです。

かつての巨匠達も生涯手放さなかった作品がありずっと描き続けたといわれています。

例えばレオナルドダヴィンチなどは遅筆で有名です。

納得できるものを作ろうとしてなかなか筆をおけなかったらしいです。

天才たちでさえそうなのですから、僕が簡単に納得できる作品を描けるわけがないんですね。

しかしだからこそ絵を描く事は楽しいとも言えるのでしょう。

それこそ生涯をかけて理想を追い求める価値があると言えるのです。

もしあなたが人生において絵を描く事を少しでも追い求めるのなら、この本が一助となれば幸いです。

この電子書籍の利用に際しては、以下の条件を遵守してください。

この電子書籍に含まれる一切の内容に関する著作権は、電子書籍作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なく、この電子書籍の全部又は一部を、複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事、刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

電子書籍作成者は、この電子書籍の内容の正確性、安全性、有用性等について、一切の保証を与えるものではありません。

また、この電子書籍に含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接的に生じた損害について一切の責任を負わないものとします。

この電子書籍の使用に当たっては、以上にご同意いただいた上、ご自身の責任のもとご活用いただきますようお願いいたします。